

番号	項 目	良くできている	できている	努力が必要	評価困難
1	○理念の具体化 サービス理念や運営方針は、家庭的な環境の中で、利用者の能力や尊厳を尊重したケアを行うなど、グループホームの特徴を生かしたものになっている。	○			
2	○理念の共有と実現 すべての職員が、ホームの理念にもとづき、常にその実現に取り組んでいる。	○			
3	○グループホームでの生活空間づくりの工夫 玄関を中心として西館のユニットと東館のユニットとになっており、西館は洋風に中庭、東館に純和風の中庭があり、また各々のユニットがその庭を模写した絵画が飾られたり、またピアノ（月一回の音楽療法として採用）が置かれたり、裏は菜園となったり、敷地の周りには季節の花が植えられ、その庭には椅子やテーブルも置かれ日光浴に三々五々入居者の方々が出入りされる姿もあった。室内は採光にも設計上の工夫がされており、明るく温かい雰囲気をかもしだし、快適な空間が作られていた。				
4	○気軽に入れる雰囲気づくり 入居者や家族が入りやすい、近隣の住民も訪ねやすいなど、玄関まわりや建物の周囲が違和感や威圧感を感じさせないつくりになっている。	○			
5	○家庭的な雰囲気づくり 共用の生活空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレなど）をはじめ、調度品や設備、物品や装飾が家庭的な雰囲気になっている。	○			
6	○くつろげる場所の確保 居室以外に、自由に過ごせるような居場所がある。	○			
7	○居室の環境づくり 居室は、入居者一人ひとりの生活にあわせ、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれるなど、安心して過ごせる場所となっている。	○			
8	○入居者の身体機能の低下を補うことに配慮した環境及び生活空間づくり	○			
9	○痴呆症状に配慮した環境づくり 場所の間違いなどの混乱を防ぐための工夫がしてある。	○			
10	○落ち着いた暮らしができる快適な環境づくり 入居者が落ち着いて快適に暮らせるように、音の大きさ、光の強さ、におい、冷暖房などに配慮してある。	○			
11	○入居者に対するケアを行ううえで工夫されていること 入居者の状態を把握した自立支援を第一目標にしているが、動きの激しい方や帰宅願望の強い方へは午後から地域への散歩を行い、夕食まで職員が交代で寄り添っている。（本日も散歩される姿があり、また男性入居者への対応は大変そうであったが、職員の見守りも女性スタッフから男性スタッフへの交代などで対応されていた。） 月に一回外部より（ピアノの先生を招いて）音楽療法で楽しんでもらっている。この音楽療法においては、きっちりとしたデータが取っており（参加状況・社会性・音楽操作・歌唱活動・発語発音など）ランク付けされ、療法として今後にも生かそうという体制ができている。 花を植えたり、菜園の野菜の観察や収穫で生きがいを持って頂いたり、ボランティアの方の歌や踊りもある。職員と一緒に歌やリラックス体操にも取り組んでいる。				
12	○個別・具体的な介護計画の作成 アセスメント（評価）に基づいて、入居者一人ひとりの状況に応じた具体的な介護計画を作成するとともに、その計画の内容について入居者や家族に説明している。	○			
13	○介護計画への理解と実践 すべての職員が入居者一人ひとりの介護計画を理解し、その介護計画に沿ったケアを行っている。	○			
14	○職員間での情報の共有 職員間での申し送りや情報伝達を確実にやっている。また、重要事項について、すべての職員に伝わる仕組みがある。	○			
15	○入居者一人ひとりの尊重 常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。	○			
16	○職員の穏やかな態度 職員の態度がゆったりしており、入居者への言葉かけなど、やさしい雰囲気で接している。	○			

番号	項 目	良くできている	できている	努力が必要	評価困難
17	○入居者のペースの尊重 ホーム側の決まりや都合で業務を進めていくのではなく、入居者が自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。	○			
18	○入居者の意志の尊重 入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切にしている。	○			
19	○自立への配慮 入居者の「できること、できそうなこと」について、できるだけ手や口を出さずに、見守ったり一緒に行うようにしている。	○			
20	○身体拘束のないケアの実践 すべての職員が、身体拘束についての正しい理解のもと、身体拘束をしないケアを実践している。	○			
21	○入居者と共同した食事の支度と後かたづけ 献立づくり、買い物、調理や後かたづけなどについて入居者と共同して行う工夫をしている。	○			
22	○入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や、便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理をしているかどうか。また、盛り付けの工夫等を行っている。	○			
23	○家庭的雰囲気への食事支援 職員が入居者と同じ食事を楽しみながら、食べこぼし等に対する支援・介助をさりげなく行っている。	○			
24	○一人ひとりに応じた排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や自立した排泄へ向けた支援を行っている。	○			
25	○排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導や介助、失禁などへの対応は、入居者の不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○			
26	○希望に合わせた入浴の支援 入居者が自分の希望に合わせて入浴できるように支援している。	○			
27	○希望に合わせた理美容院への利用支援 入居者の希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。	○			
28	○プライドを大切にしたい整容への支援 入居者のプライドを大切にしながら、容姿や着衣の乱れ、汚れ等に対してさりげなくカバーしている。	○			
29	○細やかな安眠のための支援 夜眠れない入居者には、1日の生活リズムを通じた対策を取るなど、入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、安眠できるよう支援している。	○			
30	○主体的な金銭管理に向けた支援 入居者本人が日常の金銭管理を行えるよう、入居者一人ひとりの状況に応じた支援をしている。	○			
31	○ホーム内での役割・楽しみごとの創出 入居者がホーム内での役割や楽しみごとを見い出せるよう、家事や小動物の世話など、一人ひとりに応じた出番づくりをしている。	○			
32	○口腔内の清潔保持 入居者の状況に応じて、口の中の汚れや臭いが生じないよう、歯磨きや入れ歯の手入れ、うがい等への支援、出血や炎症のチェックなど、口腔の清潔を日常的に支援している。	○			
33	○身体状態の変化や異常の早期発見、対応 入居者の身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように努め、その状況を記録に残している。	○			
34	○服薬の支援 入居者の体調と使用する薬の目的や副作用、用法や用量を理解しており、入居者が医師の指示に従って服薬できるように支援している。		○		
35	○緊急時の対処体制の整備 入居者のけが、骨折、発作、のど詰まり等の緊急時に職員が応急手当を行うことができるようにしており、協力医療機関や消防、警察等とあらかじめ必要な事項を取り決め、連携体制を整えている。		○		

番号	項目	良くできている	できている	努力が必要	評価困難
36	○地域における入居者の生活支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、買い物や散歩、集会への参加など、積極的に地域の中で楽しめるような機会をつくっている。		○		
37	○入居者家族のホーム訪問に関する配慮 入居者の家族が気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう、ホームに来やすい雰囲気をつくっている。		○		
38	○入居者家族との交流支援 入居者と家族とが交流できるように、食事づくり、散歩、外出、行事など、ホームでの活動に参加する機会をつくっている。		○		
39	○事業所としての組織的取組状況 法人代表者及び管理者は、現場の状況をよく理解して、職員と一体となって協力してケアサービスの向上に取り組んでいる。	○			
40	○入居者の状態に応じた職員の確保 GHケアに適した資質を有する職員を採用するとともに、夜間を含め無理のない職員の勤務ローテーションを組むなど、入居者の状態や生活の流れを支援するための人員配置を確保している。	○			
41	○事故防止の対策 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合には、すべての職員が的確に対応できる体制を整えているとともに、再発防止対策を検討し、サービスの改善を図っている。	○			
42	○入居者家族からの意見や要望を引き出す工夫 入居者の家族が、気がかりなことや意見、要望などを気軽に伝えたり相談したりできるように、家族の面会時の声かけ、定期的な連絡等を積極的に行っている。		○		
43	○地域の人々との交流 入居者と地域の人々との交流のための取組みを行っている。	○			
44	○地域社会への貢献 痴呆の理解や関わり方についての相談への対応や教室の開催、研修生やボランティア等の受入れなど、グループホーム運営上培った知識や経験、技術などを地域社会に提供している。	○			
45	○ホーム全体の雰囲気 花に囲まれた広い玄関、ペンションかと思わせる洋風のグループホームである。門を入ると入居者が盆栽をいじられ、その脇でそっと見守るスタッフの姿があり、自然にお迎えいただいた。玄関を境に左右に配置された温かさが感じられる広い共有スペースがあり、中庭は和風作りが東館、洋風作りが西館と凝った作りの中庭となっており、明るい太陽の光が各居室に射し込み、中庭で小鳥までもが迎えてくれた。入居者にとってバリアフリーが徹底された環境の中でゆったりとした時の流れを感じる居心地の良い環境となっている。				
46	○総括的な評価 事業計画を作成し、年間行事計画を立て、また二人の管理書で話し合い、月間目標が設定されている事は意思疎通に優れ、グループホームの宇城協議会（ブロック会議）に参加したりと自己研鑽される姿もあり、またユニット会議や全体会議を通して反省と教訓を踏まえ、より良いグループホームにしたいとの思いが伝わる。会議録の中に見つけたメモのスタッフのやる気を伺える“100良いことがあっても1つの失敗が0に戻るということを念頭において行動する”常にケアに対して前向きである。また細かい配慮が随所に見られる事もこのグループホームの良さである。一例を挙げると、手作りの足置き、車椅子を使わないケア、記録簿では、頂き物ノート、調理用の申し送りノート等である。				
47	○優れている点 各ユニットの管理者を中心に職員の方々のケアに向ける情熱ですばらしい運営ができています。開設後まだ短期間ではあるが、創意工夫の後も見られ、業務日誌・カンファレンス・音楽療法・研修記録等々挙げればきりが無いほどの記録が取られ保存され、明日へ向けた取り組みがなされています。 その中でもより優れていると思えるのが音楽療法である。ただ歌の時間（ピアノ）などというのではなく、本当の音楽療法として、手書きの譜面を作り、入居者の昔からのなじみの歌を、参加状況（自主的かどうか）・社会性・音楽操作・歌唱活動・発語発言をランク付けし、データとして残り、今後に活かそうという試みがなされています。 また、お風呂は温泉を引き、西館は“オリーブの湯”、東館は“もみじの湯”と命名され楽しみのひとつとなっている。またさりげない気配りが随所に見られ、入居者も職員も明るく、ゆったりとした時間の流れを感じた。				
48	○努力が望まれる点 職員の心身の健全を思うとき、各種ノートや記録が多く、書くという行為に時間を奪われ大変ではないかと思われる。サービスをユニットごとに創意工夫され協力もされているが、できることならば一定のレベルを踏まえで実践する事で効率化も図れると思う。もう一度、ノート類を整備され実態に合わせて修正しながら活用する事がより効果的ではないだろうか。 また、職員の方々のボランティア精神で会議や研修をされていることはすばらしいと思うが、さらなるケアの向上を望むなら、職員の心身の健全も考え、休憩時間や会議・研修時間の設定にも検討していただきたい。しかし、今現在に甘えることなく自己啓発に向けられている姿は頭の下がる思いである。今の気持ちを忘れずに、すばらしいグループホームを目指していただきたい。				